

2020年6月NHK関東甲信越地方放送番組審議会

6月のNHK関東甲信越地方放送番組審議会は、19日(金)、NHK放送センター(ウェブ開催)において、9人の委員が出席して開かれた。

議事に先立ち、6月7日(日)に放送した「これでわかった!世界のいま」の内容について報告があり議事に入った。

会議では、まず、宇都宮放送局の取り組みと今後の予定について報告した。その後、とちスペ「知ってなるほど とちぎのいちご」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、7月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

(出席委員)

委員長	原 拓男 (千曲錦酒造(株)相談役)
副委員長	奥山千鶴子 (NPO法人びーのびーの理事長)
委員	泉田 佑子 (書家)
	尾形 玲子 (養蜂家、ひふみ養蜂園(株)代表取締役)
	小野 訓啓 ((株)めぶきフィナンシャルグループ取締役)
	斉藤とも子 (俳優/社会福祉士・介護福祉士)
	杉山 正司 (元埼玉県立文書館館長)
	仁衡 琢磨 (ペンギンシステム(株)代表取締役社長)
	宮田麻一美 (万座温泉日進館女将)

(主な発言)

<とちスペ「知ってなるほど とちぎのいちご」

(総合 3月13日(金)放送<栃木県域>) について>

- オープニングがポップでとてもよく、最後まで楽しく見ることができた。栃木県特産のいちごをテーマにしており、視聴者がクイズに参加しながら地域の魅力を再発見できる、意義のある番組だった。タレントの佐藤美希さん、お笑い芸人のテルさん、栃木県農業試験場いちご研究所主任の関口雄介さんからそれぞれいいコメントを引き出しており、ゲストの選定も適切だったと思う。ただ、3名のゲストの座

席位置が横並びだったのが気になった。解説役の関口さんは、佐藤さんやテルさんと少し距離をとったほうがよかったと思う。クイズの進め方には視聴者への配慮が感じられてよかったが、視聴者とゲストの正解率にかい離があり、やや違和感があった。また、いちご研究所は新品種を作ることが最大の仕事で、いちごの試食数もかなりの数になるということだったので、関口さんから新品種開発の苦労などを聞きたかった。いちごの味を判定するロボットについても、判定基準をもっと詳しく知りたかった。また、ロボットに美味しいと判定されたいちごは、実際に食べても本当においしいのかも気になった。双方向のクイズ番組は、視聴者の満足度を高めることが重要だと思う。視聴者目線で、楽しめる番組を作り続けてほしい。

- クイズを用いて視聴者を番組に引き込むのはいいアイデアだと思う。ゲストと司会の磯野佑子アナウンサーの掛け合いも心地よかった。栃木県のいちごについての取り組みがよく理解できた。一方で、クイズにやや時間を使いすぎていると感じた。もう少し栃木県の取り組みなどを伝えてほしかった。栃木のいちごは安全に食べることができるという情報を根拠とともに示せるとよりよかったと思う。タイトルどおり、栃木のいちごについて知って納得できる楽しい番組だった。
- ゲストや司会のアナウンサーが魅力的で、楽しい番組だった。VTRの映像が映されている最中にもゲストの表情をワイプ画面で出してよかった。ただ、新品種のいちごを試食したゲストのコメントは、やや抽象的で具体的な味をイメージできなかった。テレビで味覚を伝えることは難しいが、もう少し伝える工夫がほしかった。また、ロボットが美味しいと判断したいちごを試食してもらい、その感想を聞いてみたかった。加えて、いちご研究所が栃木県の農業試験場内にあることをしっかり伝えたほうがよかった。栃木県には県外出身の人が数多く住んでおり、栃木県民でも自県のことをあまり知らない人もいるので、県域放送でも栃木の魅力を発信することには意義がある。宇都宮放送局のテーマである「つながる」というキーワードに沿った番組だったと思う。
- 栃木県が52年連続でいちごの生産量全国1位だということを初めて知った。1問目のクイズはとても興味深く、ハウスを二重構造にしてビニールの隙間に地下水を通すことで保温していることに驚いた。栃木県民の約8割はこのクイズに正解しており、いちごへの愛着が感じられた。一方で、番組全体をとおしていちごの何を伝えたいのかがあまり分からなかった。いちごというテーマがやや広すぎたのではないか。農業試験場の苦労や最新の取り組みをもっと紹介したほうが、より多くの視聴者を引き付けることができたと思う。全体的には明るい雰囲気のある番組で、楽しく見ることができた。

- ゲストは栃木県出身者で固めたほうがよかったと思う。地元の人でも知らない情報がもっと紹介されると、より説得力がある番組になったと思う。いちごの生産量が全国1位ということだが、他県とどのくらい差があるのかを視覚的に示したほうが分かりやすかったと思う。視聴者参加型の演出はよいが、視聴者に解答を呼びかける前に、ゲストにクイズに答えてもらったほうが自然な進行になったのではないか。いちごのおいしい食べ方の情報を盛り込むとともに、ゲストの関口さんに、おいしいいちごの見分けかたなどを聞けるとなおよかった。
- 視聴者にクイズの参加を呼び掛ける双方向の番組だったが、継続視聴を促す意味で効果的な演出だと思う。番組は楽しくポップな演出で、雰囲気作りがすばらしかった。特に磯野アナウンサーの進行はくだけすぎることなく、高いスキルを感じた。一方で、ゲスト2人へのクイズはやや冗長に感じた。クイズに時間をかけるのではなく、品種改良の歴史やハウスの二重構造の理由などについてもう少し深掘りしてほしかった。いちご研究所が県の機関なのか民間の会社なのか分からず、番組に集中できなかった。農業に関わりのない人や、栃木に来て日が浅い人に興味を持ってもらうためにも、県の機関であることや、研究所の所在地を伝えてほしかった。なお、宇都宮大学は番組で紹介されたロボット以外でもいちごに関する興味深い研究を行っており成果を出している。そのような紹介があるとなおよかった。
- 栃木のいちごを支える生産者のノウハウと、いちご研究所や宇都宮大学の取り組みがクイズを通して紹介されており、楽しい番組だった。栃木のいちごが多くの人々やさまざまな技術によって支えられていることがよく分かった。テロップもいちごをテーマにしたデザインで統一されており、とても好印象だった。宇都宮放送局が掲げる「つながる」というテーマが感じられる番組だった。一方で、スタジオ部分ではゲストがフレームアウトしてしまう部分があり、番組に集中できなかった。
- 栃木県民のいちごへの愛着が感じられる楽しい番組だった。クイズを活用してテンポよく気楽に見ることができる内容だったと思う。一方で、クイズの正解率は視聴者とゲストの間にギャップがあり、違和感を覚えた。日本はいちごの品種改良の分野で、世界有数の国であるので、新品種の開発についてもっと詳しく知りたかった。全体を通して飽きの来ない内容だった。磯野アナウンサーがうまく雰囲気づくりをしていたが、ゲストのコメントがやや騒がしく感じる部分もあり、生放送の難しさを感じた。
- クイズを用いた生放送の双方向番組は視聴者を引き付けるうえで効果的だと思

う。画面右上に生放送というテロップがあったことや、いちごのロゴマークが入っていたのは好印象だった。また、テロップの文字が大きく、背景の映像も工夫されていて心地よく見ることができた。クイズの解答者数と正解率がリアルタイムで表示されるのはよかったが、解答時間が少し短く感じた。ハウスを二重構造にして隙間に地下水を流して保温するという説明があったが、もう少し詳しい解説がほしかった。3問目に出題された「味を判定するロボットの研究者が以前どのようなスポーツをするロボットを研究していたか」というクイズはいちごとあまり関係が無く、無理のある出題のように感じた。

(NHK側)

クイズの数やロボットが判定したいちごの味を検証することについては、今後の参考にしたい。農業や食べ物の話題を扱うときは、食の安全安心も意識して制作している。クイズの結果については、視聴者の正解率が予想以上に高く、番組制作者としても意外だった。いちご研究所については、これまで県域放送で何度も取り上げてきたが、今回初めて番組を見た人に対してどのように情報を提供すべきなのかは重要な観点だと思う。県外出身者も含めて、地域の人々に満足してもらえる番組作りを今後も目指していきたい。

- 栃木県のいちご作りが、先人たちの栽培の工夫や新品種の開発によって発展してきたことがよく分かった。楽しい雰囲気伝わり、VTRとスタジオをうまく組み合わせた飽きない番組だった。宇都宮大学がいちごの味を判定するロボットを開発した話題は興味深かった。地域の特産品について、NHKが地元の視聴者に発信することは意義があると感じた。

<放送番組一般について>

- 5月14日(木)の「ほっとぐんま630」を見た。新型コロナウイルスの影響で外国人技能実習生の受け入れができなくなったキャベツ農家が人材不足に苦しんでいる実態を伝えていた。群馬県民に向けて現場の声をしっかり届けたい企画だったと思う。
- 6月11日(木)の「首都圏ネットワーク」を見た。新型コロナウイルスに感染す

ると、治療後でも日常生活に支障が出る場合があるということが紹介されていた。入院治療のあと、退院すれば完治するものだと考えていたが、退院後でもさまざまな後遺症に悩んでいる人が多くいることがよく分かった。感染しないこと、そしてさせないことが重要であることを伝えるよい企画だった。

- 6月2日(火)のプロフェッショナル 仕事の流儀「餅ばあちゃんの物語～菓子職人・桑田ミサオ～」を見た。構成や映像が工夫されており、すばらしい番組だった。60歳を過ぎてササ餅づくりを始めた桑田さんの笑顔がすばらしく、引き込まれた。ナレーションを極力抑えて、映像とテロップで桑田さんの魅力をうまく表現していた。桑田さんの考え方や人生についての哲学のようなものが、ディレクターとの自然なやりとりの中からよく伝わってきた。
- 6月9日(火)のプロフェッショナル 仕事の流儀「革命は、地方から起こす～編集者・岩佐十良～」を見た。幅広く地域おこし活動をしている編集者に長期間密着しており、その取材力に感心した。長野県の温泉旅館を訪れた際に、住民から自分たちへのあいさつがないというクレームを受けていたシーンがあったが、どのように対応したのか伝えておらず残念だった。地域の人たちを集めて意見を聞く場面があったが、その前段階で地域に溶け込んでいく様子も伝えるべきだったと思う。
- 6月9日(火)のプロフェッショナル 仕事の流儀「革命は、地方から起こす～編集者・岩佐十良～」を見た。岩佐さんは周囲に無謀と言われながらも地域に移住し、地域の魅力を都市部の人たちに発信する取り組みをしている。地域を元気にしたいという熱い思いが伝わってくる番組だった。地元の住民にあいさつがないと指摘されたシーンは、挑戦の始まりということを印象付けていたと思う。
- 6月9日(火)のプロフェッショナル 仕事の流儀「革命は、地方から起こす～編集者・岩佐十良～」を見た。岩佐さんが、地域の文化や人々の魅力を発信し続けていることがよく分かった。地域活性化を目指し、独自の視点で日本各地の宿泊施設を再生してきた取り組みを長期にわたって取材した力作だった。
- 6月5日(金)の「NHKニュース7」を見た。北朝鮮による拉致被害者家族会の元代表である横田滋さんの訃報を伝えていた。現代表の飯塚繁雄さんの電話インタビューがあったが、電話がつながらずに雑音が流れてとても聞き苦しかった。今後気を付けてほしい。
- 6月8日(月)の【ストーリーズ】「新宿ダイアリー～母とコロナの4か月～」を

見た。ディレクターが自身の母親を取材したすばらしい番組だった。長年新宿でマージャン店を経営している母親の日常を描くことで、問題を提起していた。真面目に働いてきた一人の人間が、新型コロナウイルスの影響で数々の困難に直面し、苦しみながらも前を向いて生きるリアルな姿を描いていた。

- 「オシぼん」を見た。3分間でおすすめの番組を紹介している。興味のある番組を探ることができるため活用している。
- 名曲アルバム「オーボエ・ソナタ プーランク作曲」を見た。オーボエ奏者の古部賢一さんのソロがすばらしく、映像やテロップで楽曲の世界観をうまく表現していた。5分の番組ながら、すばらしい演奏とともにプーランクの生涯についても紹介しており、演出力の高さを感じた。「なき王女のためのパヴァーヌ ラヴェル作曲」も見た。ラヴェルがイメージした王女が誰かということまで伝えていたのがよかった。一方で、タイトルの「なき」が平仮名だったため、亡くなった王女であることが分かりにくかった。表記のルールがあるのだろうが、漢字で記載してルビをふるなど工夫してほしい。
- 5月31日(日)の日曜美術館 アートシーン「#アートシェア 今こそ、見て欲しいこの一作」を見た。著名人が大切にしているアートを紹介していた。新型コロナウイルスと共存する時代に、美術の重要性を示したよい番組だったが、スタジオ部分のトークはありふれたもので残念だった。美術品を鑑賞するポイントなど、深みのある話を聞きたかった。新型コロナウイルスの影響で番組作りにも制約が出ていると思うが、新しいフォーマット作りに積極的に挑戦してほしい。
- 6月13日(土)のE TV特集「引き裂かれた海～長崎・国営諫早湾干拓事業の中で～」を見た。諫早湾干拓事業についての賛成反対に関わらず、この事業によって地域住民がどれほど翻弄され、心を痛めたのかがひしひしと伝わってきた。「海を壊しただけではなく、人間関係も壊した」という関係者のことばが印象に残った。地道な取材で地域住民の思いを丁寧にくみ取ったすばらしい番組だった。
- 5月18日(月)に再放送された体操ニッポン復活の舞台裏「アテネ戦士が語る金メダル秘話」(BS1 後6:00～6:50)を見た。名場面は何度見ても、感動がよみがえる。体操の男子日本代表チームが金メダル獲得を決めたシーンで刈屋富士雄アナウンサーの「栄光への架け橋だ」という実況を聞き、あらためて当時の気持ちを思い出すことができた。

- 5月30日(土)のあの試合をもう一度！スポーツ名勝負「F I F A女子ワールドカップなでしこ初優勝ドイツ大会2011」(BS1 後6:00~6:50、7:00~7:50、8:00~8:50)を見た。サッカー女子日本代表がドイツ大会で初優勝した試合をほぼノーカットで放送していた。貴重な試合を再び見ることができて感動した。NHKの映像資産はすばらしく、来年の東京オリンピック・パラリンピックにもつながる放送だったと思う。今後も過去の名試合をぜひ放送してほしい。
- 新型コロナウイルスの感染拡大で、多くのスポーツの試合や大会が中止となるなか、懐かしいスポーツの名場面を伝える取り組みは素晴らしいと思う。
- 5月23日(土)のBS1スペシャル「コロナ新時代への提言～変容する人間・社会・倫理～」(BS1 後9:00~9:49)を見た。新型コロナウイルスが存在する世界で、今後どう生きていけばよいかを考える番組だった。3人の有識者が議論をしながら、それぞれの専門分野の立場から有益な意見を述べていた。視聴者に深く考えさせる、示唆に富んだ番組だった。新型コロナウイルスに関する情報は、感染者数やクラスターの発生、給付金、経済の先行きなど現実的な話題が多いが、この番組では人間社会の変容という大きなテーマについて考えることができ有意義だった。
- 5月31日(日)のBS1スペシャル「はなれてひとつに奏でる～奇跡の“パプリカ”誕生秘話～」(BS1 後10:00~10:49)を見た。新日本フィルハーモニー交響楽団の楽団員の1人がリモートで「パプリカ」の演奏をしようと仲間に声をかけ、最終的には62人が参加してオーケストラが実現するまでを描く番組だった。オープニングの美しい風景とテロップが番組全体の内容をうまく表現しており見入ってしまった。それぞれの楽団員の個性がよく分かった。新人の楽団員からは、新型コロナウイルスの影響で満足に活動できない葛藤がにじみ出ており、同様の境遇にある人は特に共感したと思う。人と人との温かいつながりが伝わってくる、心にしみる良質なドキュメンタリーだった。新型コロナウイルスによって困難な状況に置かれても、音楽をきっかけにして前向きに苦境を乗り越えるという、人々のエネルギーが伝わってくる番組だった。
- 5月31日(日)のBS1スペシャル「はなれてひとつに奏でる～奇跡の“パプリカ”誕生秘話～」を見た。とても興味深い番組で、引き付けられた。リモートでの「パプリカ」演奏を企画した楽団員の魅力がよく伝わってきた。ディレクターのすぐれた感性が感じられる番組で感動した。

- 5月31日(日)のBS1スペシャル「はなれてひとつに奏でる～奇跡の“パプリカ”誕生秘話～」を見た。一つ一つのシーンに印象的なエピソードが散りばめられたすばらしい番組だったと思う。
- 6月15日(月)に再放送されたBS1スペシャル「市民が見た世界のコロナショック 5月編」(BS1 後1:00～1:49)を見た。新型コロナウイルスに関連して世界各国の状況が報道されているが、市民の暮らしぶりはあまり見えてこないと感じていた。この番組をとおして市民の生活の様子や各国の対策の違いがよく分かった。人々の日常がリアルに伝わってくるよい番組だった。
- 5月23日(土)の「京都・祇園 紗月の四季」(BSプレミアム 後7:30～8:59)を見た。新型コロナウイルスについての情報があふれているなか、気持ちが和らぐ美しい映像が散りばめられた番組で癒された。お座敷に関わる仕事は困難に直面しているが、そんななかでも芸妓の紗月さんが花柳界でプライドを持って生きていることを伝えた良質な番組だった。紗月さんの感情の機微を丁寧に描いており、すばらしかった。困難に立ち向かう姿は、芸道に関わる人たちにとって大いに参考になると感じた。今後もこのような番組を期待している。
- 6月10日(水)の英雄たちの選択「昭和に響いた“エール”～作曲家・古関裕而と日本人～」を見た。連続テレビ小説「エール」の主人公のモデルである古関さんについて深く知ることができた。古関さんの戦争体験や葛藤が作品に与えた影響を丁寧にひも解いていたと思う。古関さんについてさまざまな側面から考察した興味深い番組だった。
- 5月24日(日)のDJ日本史「シリーズ これで日本が出来ました！～参勤交代」を聴いた。参勤交代は道の原点という趣旨の解説があったが、それは結果論であり、原点となったのは伝馬制度だと思う。歴史の検証は入念に行ってほしい。人が動くことで経済が動き、それが感染症の流行にもつながってきたという歴史の紹介は良かった。

(NHK側)

番組で歴史を扱う際には事実関係をきちんと確認するよう努めているが、いただいた意見は参考にさせていただく。

- 6月9日(火)のプロフェッショナル 仕事の流儀「革命は、地方から起こす～編集者・岩佐十良～」を見た。岩佐さんの仕事を丁寧に取材して淡々と伝えており、

好感が持てる番組だった。仕事に対する姿勢がすばらしく、見入ってしまった。プロフェッショナルとしての考え方やポリシーもしっかり伝わってきた。「気合って古いんだよな。でも、気合い」ということばにパワーをもらった。

NHK編成局
番組審議会事務局

2020年5月NHK関東甲信越地方放送番組審議会

5月のNHK関東甲信越地方放送番組審議会は、15日(金)、NHK放送センター(ウェブ開催)において、10人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、「2020年度国内放送番組編成計画および2020年度関東甲信越地方向け編成計画の変更点」と「2019年度関東甲信越地方放送番組の種別ごとの放送時間」について報告があった。続いて、前橋放送局の取り組みと今後の予定について報告した。その後、ほっとぐんま630「となりの一步」、ニュース・気象情報(群馬)「Newsココが知りたい」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、6月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

(出席委員)

委員長 原 拓男 (千曲錦酒造(株)相談役)
副委員長 奥山千鶴子 (NPO法人びーのびーの理事長)
委員 泉田 佑子 (書家)
尾形 玲子 (養蜂家、ひふみ養蜂園(株)代表取締役)
小野 訓啓 ((株)めぶきフィナンシャルグループ取締役)
斉藤とも子 (俳優/社会福祉士・介護福祉士)
杉山 弘子 (アサヤ食品(株)代表取締役社長)
杉山 正司 (元埼玉県立文書館館長)
仁衡 琢磨 (ペンギンシステム(株)代表取締役社長)
宮田麻一美 (万座温泉日進館女将)

(主な発言)

<ほっとぐんま630「となりの一步 蚕の繭でアスリートの爪を丈夫に」

(総合 4月2日(木)放送<群馬県域>)

ニュース・気象情報(群馬)「Newsココが知りたい 新型コロナウイルス」

(総合 4月17日(金)放送<群馬県域>) について>

○ 「となりの一步」は群馬愛を感じるコーナーだった。爪はアスリートだけではなく

すべての人にとって重要な部分だが、その保護剤の原材料に蚕やスズメバチの繭が使われていることは驚きだった。地域特産の素材を生かしてものづくりをするという、群馬県の特徴が分かりやすく紹介されており、よい切り口だったと思う。

「Newsココが知りたい」は、子どもから大人まで誰もが理解しやすいような演出上の工夫が感じられ、好感を持った。新型コロナウイルスについての質問に分かりやすく答えているだけではなく、難しい用語についての解説が付け加えられていたのもよい。新型コロナウイルスについてはさまざまな情報があふれているので、重要な情報を分かりやすく伝えるという取り組みを継続してほしい。

- 「となりの一歩」は地域の放送局ならではの企画でとてもよかった。爪の保護剤にスズメバチの繭や卵の薄皮を使用することなど、製品の開発プロセスがよく分かった。ボルダリングの選手が保護剤を使用しているとのことだったが、使用した感想を聞きたかった。前橋放送局のホームページでもこのコーナーが視聴できるようになっており、インターネットサービスを充実させるのはいい取り組みだと思う。

「Newsココが知りたい」は視聴者から寄せられた疑問に記者が答えるコーナーで、今回は新型コロナウイルスについての解説だった。身近な情報はニーズが高いためよかったと思う。地域に根差した放送局が、視聴者の関心が高い情報を提供することは意義深い。ただ、画面に表示された「Newsココが知りたい」のロゴが白色とオレンジ色のデザインで、視覚的に見にくいと感じた。

- 「となりの一歩」は爪の保護剤の開発プロセスが分かりやすく伝えられていた。地元の特産品である繭や、卵の薄皮など身近な材料を使い、国の研究機関とも協力しながら約3年をかけて完成させたとのことだった。夢のある話題で、よい内容だったと思う。

「Newsココが知りたい」は新型コロナウイルスのPCR検査について取り上げていた。視聴者の関心が高いタイムリーな話題で、全体的に分かりやすい解説でよかった。群馬県内における1日あたりのPCR検査可能件数の話題の直後に、これまでの累計検査数がグラフで示されたが、1日の検査数の変化をグラフで紹介したほうが分かりやすかったと思う。視聴者からの疑問に答えるコーナーは県民のニーズも高いと思うので、今後も期待したい。

- 「となりの一歩」は地元の会社が特産の蚕の繭を活用し、アスリート向けの爪の保護剤を開発する過程が紹介されていた。興味を引く話題で、内容もおもしろかった。蚕やスズメバチの繭、卵の薄皮などの成分を組み合わせることで保護剤になることは驚きだった。コーナーの構成も、研究開発の内容と経過、保護剤を実際に使用している野球選手の感想、そして今後の展望の紹介、という流れがあって分かり

やすかった。長年培ってきた地元企業の技術や、保護剤を開発した社長の思いが伝わってくるよいコーナーだった。

「Newsココが知りたい」は新型コロナウイルスについてその時点の最新情報を簡潔に分かりやすく解説していた。アナウンサーと記者が掛け合うスタイルは親しみが増すのでよい。一方、ドライブスルー検査を扱った項目で、「希望者すべてにPCR検査をするのは非現実的」という担当者のコメントがあったが、ドライブスルー検査に関連した質問の答えとしては違和感があった。ドライブスルー検査は、検体採取の選択肢の一つであり、PCR検査が必要かどうかは医師や保健所が判断するものだろう。この問題については専門的な要素がどうしても強いので、情報を整理して適切に伝えてほしい。

- 「となりの一步」は爪の保護剤に蚕の繭を使用しているという群馬県らしい話題で好感を持った。開発に国の研究機関である農業・食品産業技術総合研究機構が関わったとのことだが、この研究機関についてもっと詳しい説明がほしかった。また、保護剤を使用している長野県のアスリートに感想を聞いていたが、長野県ではなく群馬県のアスリートに話を聞いてほしかった。この保護剤については、今後の展望をもっと伝えてほしかった。

「Newsココが知りたい」は身近な話題をタイムリーに扱っていてよいコーナーだと思う。新型コロナウイルスによる臨時休校に関する相談窓口の紹介では、電話番号などをもっと長い時間表示しておいたほうが親切だったと思う。

- 「となりの一步」は地元の企業が特産の蚕の繭を使って製品開発をしているという話題だったが、地域に元気を与えるよい内容で、伝え方も分かりやすく工夫されていた。「速球を投げ込むピッチャー、壁をよじ登るボルダリング」というナレーションがあったが、人物と競技の並置になってしまっていて違和感があった。群馬デスティネーションキャンペーンの話題は、群馬県のマスコットキャラクターが登場することで雰囲気柔らかくなっていたのがよかった。綿貫観音山古墳の国宝をシリーズで紹介しているのもよかったが、難しいことばについては学芸員の説明に合わせて字幕を出すなどの工夫がほしかった。また、渡来品のデザインを参考にして兜が製作されたのではないかという説明があったが、その根拠も伝えてほしかった。群馬県と渡来文化は歴史上深いつながりがあるので、その点を思い起こさせるような紹介もほしかった。なお、気象予報のコーナーでは、気象予報士が話すことばのイントネーションにやや違和感を覚えた。

- 「となりの一步」について、群馬県の特産である蚕の繭や生糸だけを取り上げるのだろうと思いながら視聴した。実際には、蚕の繭だけではなくスズメバチの繭や

卵の薄皮の成分も使って爪の保護剤を作るという、地元企業の取り組みが紹介されており感動した。繭は糸にしたうえで使用するという常識が覆されて驚いた。群馬県の魅力を伝えるよい企画だった。一方で、保護剤を使用しているアスリートを紹介していたが、長野県の選手だったため、地元の選手に話を聞いてほしかった。

「Newsココが知りたい」は視聴者から寄せられた疑問に記者がしっかり答えしており、安心感があった。ただ、コーナーのロゴデザインが見つらいと感じた。引き続き、視聴者の声に寄り添った番組作りを期待している。

- 「となりの一歩」について、養蚕業が衰退しつつある中、蚕の繭を生かす取り組みを伝えており、とてもよい企画だった。蚕の繭が美容製品ではなく、アスリートが使用する爪の保護剤になるということに驚かされた。今まで使われてこなかったタンパク質の成分が爪の保護に有効であることなど、身近なものを再発見するヒントが散りばめられていたと思う。ただ、コーナーを通して何を最も伝えたかったのかがよく分からなかった。保護剤の優れた点についても、もっと具体的に知りたかった。

「Newsココが知りたい」について、視聴者との距離が近くなるよい企画だと感じた。ただ、PCR検査について、視聴者の質問にしっかり答えられていたのか疑問が残った。記者の解説は分かりやすかったものの、やや冗長だったため、どんな質問に対する解説なのかがぼやけてしまっていた。質問に対して端的に答えを示し、そのあとで詳しく解説する構成にしたほうがよかったと思う。前橋放送局のホームページは地域性も感じられるよいデザインだと思う。このコーナーで取り上げた内容を、ホームページにも掲載してほしい。

- 「となりの一歩」は爪の保護剤に注目しており、興味深い内容だった。地元の特産品を生かした製品があるという情報自体にも価値があると感じた。ただ、実際に商品化されたのかがあいまいでよく分からなかったため、伝え方は工夫してほしい。この保護剤を使用してもドーピングにはならないという紹介があったが、もともとはオリンピックを意識した企画だったのだろうか。

「Newsココが知りたい」について、視聴者からの身近な疑問に答えることは地域放送局の役割でもあるため、こういった取り組みはすばらしい。意見が分かれるようなニュースを伝えるときはさまざまな側面を示すことが重要だが、一方でどう考えるべきか指針がほしいと感じるときもある。伝え方のバランスは難しいと思うが、視聴者にとってよりよい放送になるよう心掛けてほしい。

- 「となりの一歩」の内容は興味深くとてもよかった。ただ、番組内で紹介していたコーナー名の由来について、身近な場所をとなりと表現していたがじっくりこなかつ

た。また、爪の保護剤を使用した感想は地元のアスリートに聞いてほしかった。

「Newsココが知りたい」のロゴデザインは文字が読みにくく、改善の余地があると感じた。

(NHK側)

「となりの一歩」では、保護剤を使用した効果を使用しなかった場合と比較して伝えたかったが、その違いを映像で伝えることは難しかった。今回は保護剤を使用してその効果を実感している長野県の野球選手を取り上げたが、群馬県内のアスリートを取り上げてほしいという意見は今後に活かしていきたい。農業・食品産業技術総合研究機構ではスズメバチの研究が行われているが、活動の詳細については、今回は保護剤についてより詳しく伝えることを優先し割愛した。今回取り上げた企業の研究は今後も続いていくので、引き続き取材したいと考えている。

「Newsココが知りたい」については、ふだんのニュースでは詳しく説明できないことばなどを分かりやすく解説していきたいと考えている。コーナーのロゴデザインについては、どのような見せ方がよいのか検討していきたい。ドライブスルー検査の話題に関連して担当者のコメントを紹介したが、記者の質問とかみ合っていない部分があったと思う。ニュースの伝え方やホームページ展開について、よりよいものにできるよう引き続き考えていきたい。

<放送番組一般について>

- 4月25日(土)の土曜スタジオパーク「『エール』特集」を見た。ミュージシャンの森山直太朗さんがリモートで出演していたが、音声の遅れが気になった。
- 4月29日(水)のNHKスペシャル「未解決事件 File.08 JFK暗殺前編」(総合 後7:30~8:30)、5月2日(土)のNHKスペシャル「未解決事件 File.08 JFK暗殺 後編」(総合 後9:00~9:54)を見た。衝撃的な事件を取り上げており、関心を持って視聴した。事件の真実は明らかになっていないが、さまざまな側面から事件に迫ったすばらしい番組だった。

- 4月28日(火)のプロフェッショナル 仕事の流儀「緊急企画！ 危機と闘うプロたち」を見た。さまざまな分野の第一線で活躍する人たちからのメッセージを届けており、元気をもらえる番組だった。
- プロフェッショナル 仕事の流儀「緊急企画！プロのおうちごはん」シリーズを見た。番組特有の演出効果で、自宅のできるプロのレシピを伝えていておもしろかった。番組の知名度を生かして視聴者にステイホームを呼びかけており、インパクトのある企画だった。
- 5月9日(土)のスゴもりどうぶつえん「“世界一幸せな動物”クオッカ登場」(総合 後 10:00~10:10)を見た。短い番組でありながらストーリー性があり、動物たちの特徴がしっかり伝わってきた。飼育員の取り組みも紹介されており、知的好奇心が満たされた。心が癒やされ、心地よい時間を与えてくれる番組だった。次回も期待している。
- 5月11日(月)の国会中継「衆議院予算委員会質疑」(総合 前 9:00~11:54、後 1:00~4:10)を見た。新型コロナウイルスの感染相談や受診の目安に 37.5 度以上の発熱が 4 日以上という文言があったが、そのことが一因となって重症化や死に至ったと思われる患者が出てしまった。質疑では遺族のことばが取り上げられていたが、この目安が結果として最悪の事態を招いたのではないかと感じた。未知のウイルスなので対応は難しいと思うが、今回明らかになったさまざまな問題点を検証したうえで多角的に取材し、今後の教訓となるような番組を放送し続けてほしい。

(NHK側)

新型コロナウイルスについては地域のニュースも含めて全国ニュースで放送しているほか、「NHKスペシャル」や「クローズアップ現代+」などの番組でも多角的に伝えている。引き続き、医療や経済などさまざまな切り口で伝えていきたい。

- 外出自粛が続く中、NHKはプロフェッショナル 仕事の流儀「緊急企画！プロのおうちごはん」シリーズなど、自宅での時間の使い方を紹介したさまざまな番組を放送しており、とてもよい。特に、E T V特集の一連の番組はすばらしかった。4月23日(木)に再放送されたE T V特集「7人の小さき探求者~変わりゆく世界の真ん中で~」を見た。新型コロナウイルスによって先が見通しにくいなか、未来を創り上げる子どもたち一人一人を信頼することで子どもたちが本来の力を発揮

できることが伝えられており、考えさせられる番組だった。4月25日(土)のE T V特集「緊急対談 パンデミックが変える世界 ユヴァル・ノア・ハラリとの60分」では貴重な意見を聞くことができ、とても勉強になった。

- 新型コロナウイルスについて、E T V特集の一連の番組は勉強になった。特に、E T V特集「緊急対談 パンデミックが変える世界 ユヴァル・ノア・ハラリとの60分」では、新型コロナウイルスの問題に関連して今後起こりうる脅威を示したうえで、人々がそれに対処すべき方策が示唆されていた。マクロな視点でとらえた番組ですばらしかった。道傳愛子キャスターのインタビューも見事だったと思う。
- E T V特集「緊急対談 パンデミックが変える世界 ユヴァル・ノア・ハラリとの60分」を見た。結末を選ぶのは私たちで、協力と連帯が必要だというメッセージが印象に残った。
- 5月2日(土)のE T V特集「義男さんと憲法誕生」を見た。日本国憲法制定にはさまざまな背景があったとされるが、敗戦後の混乱期に先人たちが日本の将来について思索を重ねたことなど、隠れた一面を知ることができた。平和主義や生存権の提唱に、法学者の鈴木義男さんが大きく寄与していたことが理解できた。また、鈴木さんの人生描写があったことで、当時の様子がよく伝わってきた。帝国憲法改正案委員小委員会速記録などの資料が再現ドラマのベースになっており、分かりやすく伝えていたと思う。ただ、同委員会において、よい意見は党派を超えて取り入れるという考え方が根本にあったことの紹介があると、さらに視聴者の理解が進んだと思う。新しい資料という紹介があったが、速記録は1995年に公開されている。研究が進み新たな事実が明らかになっているが、新資料という表現には違和感を覚えた。憲法の制定に関わった人物を丁寧に描いており、「E T V特集」ならではの、見応えのある有意義な番組だった。

(NHK側)

速記録が公開された1995年以降、さまざまなことが明らかになってきた。特に、国家賠償請求権や刑事補償請求権についても鈴木さんが果たした役割が大きかったことは、1995年以降に見つかった新資料と速記録を突き合わせることで分かったことだ。こうしたことを含め、新資料という表現を使った。

- 4月19日(日)の日曜美術館「疫病をこえて 人は何を描いてきたか」を見た。

これまで流行してきた疫病を知り、先人たちの歴史を学ぶうえで、美術からのアプローチは印象に残るので有効な手法だと思う。紹介されていた作品からは、疫病の始まりから終息までの道のりや、人々が苦闘する様子がしっかり伝わってきた。祇園祭など、疫病をきっかけにはじまり、現代まで続いている文化が紹介されたこともよかった。最近SNSで話題の妖怪「アマビエ」を取り上げ、そのルーツを探っていたことも興味深かった。疫病をどう乗り越えていくのか、一人一人が考えるきっかけや時間を与えてくれる番組だった。

- 4月30日(木)のバリバラ「バリバラ桜を見る会～バリアフリーと多様性の宴(うたげ)～ 第二部」を見た。桜を見る会の演出で注目が集まっていた番組だが、内容がすばらしかった。相模原障害者殺傷事件の背景にある社会の問題点を鋭く突いており感心した。番組の放送後にはさまざまな反響があったと思うが、NHKだからこそ制作できる内容だった。
- BS1で放送されている「ワールドニュース」や「キャッチ！世界のトップニュース」を見ている。とても分かりやすく世界のニュースを伝えており、新型コロナウイルスに対する各国の対応も参考になる。ただ、時報や二次元バーコードの表示によって映像が見づらくなることがあるので、気を付けてほしい。

(NHK側)

海外の放送局が制作した映像を使っているのが難しい面もあるが、視聴者が見やすい放送になるよう引き続き工夫していきたい。

- 5月12日(火)のアナザーストリーズ 運命の分岐点「“2001年宇宙の旅” 未来への扉は開かれた！」を見た。近頃はAIの発達が目覚ましく、新型コロナウイルスによって世界規模で物事を考える必要性も増しているが、半世紀も前に公開された映画の中で現代に通じるような問題が示唆されており、制作者たちの才能に驚かされた。映画に携わったスタッフが、のちにすばらしい映画監督になったことや、映画に影響されて研究を深めた研究者がいるという紹介など、とても興味深い番組で見入ってしまった。
- 新型コロナウイルスに関連するニュースを日々視聴している。取材や番組制作に制約がある中、NHKにチャンネルを合わせると正確かつ必要な情報が伝えられており感心している。ニュースだけではなく、子ども番組も継続していてすばらしい。引き続き期待している。

(NHK側)

大河ドラマや連続テレビ小説なども収録が中断しているが、リモート収録なども活用し、なるべくよい放送ができるよう努めている。引き続き知恵を使いながら放送を継続していきたい。

- 新型コロナウイルスについては、ニュースや「E TV特集」、「クローズアップ現代+」などで最新の情報を客観的に伝えていると思う。また、自宅でどう過ごすかということも扱っており、さまざまな視点で伝えていることに好感を持った。なお、食や運動などの健康に関わる話題は多いが、衣食住の衣や住をテーマにした番組はあまりないように思う。いずれも日々の生活で重要なことだと思われるので、バランスよく放送してほしい。
- Eテレには子ども向けの番組が数多くあるが、NHKプラスでは子ども向けのコンテンツが目立たないように思う。「NHK for School」では簡単に見られるようになっているので、NHKプラスの利便性を高めてほしい。

(NHK側)

NHKプラスについては、引き続き視聴者にとってよりよいサービスとなるよう努力していきたい。

- NHKプラスによってニュースを見る機会が増えたという人もおり、効果的な取り組みだと思う。時間に縛られない視聴スタイルを人々に提供しており、新しい手法だと感じている。

NHK編成局
番組審議会事務局

2020年4月NHK関東甲信越地方放送番組審議会

4月のNHK関東甲信越地方放送番組審議会は、17日(金)、NHK放送センター(ウェブ開催)において、9人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、前回の審議会での答申を受け「2020年度関東甲信越地方向け地域放送番組編集計画」を決定したこと、およびこれに基づいて策定した「2020年度関東甲信越地方向け地域放送番組編成計画」について説明があり、続いて2020年度インターネットサービス実施計画について説明があった。その後、首都圏情報 ネットドリ！「家族が最期を決めるとき～脳死移植 初めて語る葛藤～」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、5月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

(出席委員)

委員長 原 拓男 (千曲錦酒造(株)相談役)
副委員長 奥山千鶴子 (NPO法人びーのびーの理事長)
委員 岩佐 十良 ((株)自遊人代表取締役)
小野 訓啓 ((株)めぶきフィナンシャルグループ取締役)
斉藤とも子 (俳優/社会福祉士・介護福祉士)
杉山 弘子 (アサヤ食品(株)代表取締役社長)
杉山 正司 (元埼玉県立文書館館長)
仁衡 琢磨 (ペンギンシステム(株)代表取締役社長)
宮田麻一美 (万座温泉日進館女将)

(主な発言)

<首都圏情報 ネットドリ！「家族が最期を決めるとき～脳死移植 初めて語る葛藤～」
(総合 2月7日(金)放送) <関東甲信越地方向け>について>

- 家族や自分が脳死と判定された場合に、残された家族はどう判断するだろうかと深く考えさせられる番組だった。実際にその判断を迫られた家族への取材では、家族の葛藤が伝わる内容で多くの人たちに実感を持って考える機会を与えることができたのではないか。

- 交通事故により脳死と判定された少年の映像で始まる印象的なオープニングだった。臓器提供を行った2つの家族の取材に基づき、命という重いテーマを扱いながらもしっかりとまとめられていた。取材に携わった記者やスタジオのキャスター、出演者のコメントも心に響いた。実際はもっと多くの家族に取材をしたのだと思うが、遺族に直接インタビューするのは大変だっただろう。脳死による臓器移植について視聴者に関心を持ってもらうきっかけを作ることができたのではないか。一方で、このような番組を医療関係者や臓器提供者、臓器提供を希望する当事者たちはどう捉えるのだろうかと思なった。

(NHK側)

取材した方や医療関係者からはおおむね好評な意見を頂いた。ただし視聴者からは臓器移植に全面的に賛成するような内容に感じたという意見もあった。さまざまな考え方や受け止め方があると考えている。

- 臓器移植という大変重いテーマをよくここまで伝えてくれたと感動した。番組では2組の家族が紹介されていたが、プライバシーに関わる写真も提供されていて、取材者と家族との信頼関係を感じた。子どもの臓器移植を決意した親の思いも大変よく伝わってきた。臓器移植の是非ではなく、命について考えさせられる番組だった。風見しんごさんがコメンテーターとして参加されていたが、10歳の子どもを同じように交通事故で亡くされており、涙をこらえながら思いを伝える姿に胸を打たれた。家族との絆や命の重さを改めて振り返ることができる番組だった。

(NHK側)

番組で紹介した家族だけではなく、今回紹介しなかった家族からも、さまざまな声を聞き、信頼関係を築きながら制作した。制作者としても考えさせられることが多い取材だった。

- 非常に重いテーマについて考えるきっかけを与えてくれた番組だった。遺族から写真などの資料もたくさん提供されており、取材者と制作者の信頼関係が強く感じられた。一方で、脳死判定がされた時に、臓器提供を選択しなかった家族の話も聞きたかった。どちらも厳しい選択で、正解はないと思う。家族が最期を決めなければいけない時に何を思うのか、その違いを見たいと思った。子どもの臓器移植を決意するまでの過程で、奇跡を願う気持ちと、現実を冷静に受け入れなければならないという揺れ動く気持ちがよく分かり、家族の愛がよく表現されていた。番組を見て、自分

がどうしたいかではなく、本人ならどう思うかという判断基準を持つことも重要だと感じた。

- 重い決断を下さなければいけない家族の苦悩がよく取材されていた。再び悲しい気持ちを思い起こさせてしまうなかで、よく取材を承諾してくれたと思う。「誰かの一部としてでも生きていけるなら」という言葉からは、悲しみの先に希望が残るというメッセージが感じられた。脳死状態で本人の意思が分からない中、意思を押し量る難しさや家族の覚悟に基づく決断が胸に迫ってきた。脳死移植について、多くの人は頭の中では理解しても、心情的には受け入れがたい問題もあると思われるので、よい問いかけになる番組だった。脳死移植に否定的な意見も番組の最後で紹介されており、バランスが取れていたように思う。
- 長期にわたる丁寧な取材を感じさせる内容で、難しいテーマを分かりやすく伝えていたが、番組の雰囲気は軽すぎたのではないか。「首都圏情報 ネットドリ！」のふだんのセットやナレーション、BGMが使われていて、今回のテーマにはそぐわないように感じた。画面右上の「悲痛」「苦悩」といったテロップの字体も、視聴者に感情を押しつけているようだった。NHKにしかできない表現方法があると思うので、今回のような重いテーマのときには、文字の色合いやデザインを含め画面の作り方にも気を配ってほしい。一方で、内容はすばらしく、脳死と判定された子どもの手形や足形をとるシーンは印象的だった。脳死判定を受けた家族の様子が報道されることは少ないと思う。個人的には、脳死状態での臓器移植になかなか賛成できない気持ちだったが、番組を見てこの夫婦の決断を尊重したいと思った。また、家族内で意見が分かれたケースを取り上げていた点も、この臓器移植の問題の難しさを伝えることができていた。家族と制作者の信頼関係を感じることもできた番組だった。

(NHK側)

多くの視聴者に見てもらえるような番組作りをしたいと思う反面、内容とかけ離れた雰囲気の演出にならないように検討しながら制作している。頂いた意見は今後の番組制作に生かしていきたい。

- 番組を見終わった後、家族の大切さを改めて実感し、臓器提供について話し合った。命の尊さはもちろんだが、ドナーファミリーの葛藤の先に、新しくつながっていく命があることが伝わり、重いテーマでありながらも希望が見いだせた番組だった。

- まだ体が温かいなかで、脳死を受け止め臓器提供を決断するのは本当に大変なことだと改めて感じた。脳死状態での臓器移植は家族の同意があればできるようになったが、家族が判断することの難しさを番組では伝えられていたように思う。今回は2組の家族の例を紹介していたが、臓器提供を選択しなかった家族や臓器提供を受けた家族のコメントなどがあってもよかった。「首都圏情報 ネットドリ！」は番組の冒頭で2019年度の脳死による臓器提供は97件と紹介していたが、脳死による臓器提供の件数がどのように変わってきたのか、もう少し具体的に知りたかった。また、脳死による臓器提供について一般的な解説があってもよかったのではないか。全体的には、とても重いテーマに対し丁寧な取材が行われていてよい番組だった。

(NHK側)

今回は、遺族の思いや葛藤を中心に伝えたが、臓器提供の件数も含め、多角的に伝えられるよう今後も取材を重ねていきたい。

- 突然の交通事故で子どもを亡くしたご両親のインタビューは、臓器提供を決断するまでの葛藤や悲しみ、苦しみが混在しており、胸を打つ内容だった。臓器提供という重い決断をしたご両親の気持ちを考えると、察するに余りあるものがあった。臓器提供については、どちらかというとな否定的な立場だったが、番組を見て考え方が少し変わった。10歳の子どもを交通事故で亡くしたゲストの風見さんのコメントや、ご両親の子どもの姿、形はなくなるが誰かの体の中で生き続けることが自分の心の中の救いであり、そう考えることで前向きに生きていけるといことばはとても印象に残った。視聴者は突然自分にも起こるかもしれない問題について、多くのことを考えさせられたのではないか。
- 家族を失うという最大の悲しみの中で取材に応じてくれた方々に感謝を申し上げたい。大変デリケートな問題取材した制作者たちにも感謝したい。今までぼんやりとした認識であった臓器提供が自身のこと、家族のこととして考えることにつながった。もしこの番組をきっかけに、臓器提供の件数が増え、助かる命が増えるのであれば、この番組は大変意義があったのではないか。番組内では時間的に厳しかったかもしれないが、個人情報ふせうえで、臓器提供を受けた方々の思いを文章でもよいので何例か紹介してもらえるとよかった。

<放送番組一般について>

- 4月10日(金)の首都圏情報 ネットドリ！「感染急増 どうなる首都の医療」を見た。松田利仁亜キャスターがこれまで以上に外出自粛を呼びかけ、感染拡大による医療の崩壊を防ぐため、医療現場の厳しい状況をしっかりと伝えており、実態を知ることができた。小池百合子東京都知事のコメントも紹介され、人との接触を少なくすることが重要であることが分かり、説得力のある番組だった。
- 3月24日(火)の「みんなの卒業式」(総合 後 7:30~8:42)を見た。また、28日(土)(総合 後 4:58~5:00)の再放送を改めて見たが、何度見てもすばらしい番組だった。
- 3月29日(日)のNHKスペシャル「ホットスポット最後の楽園 season 3 第3回『進化の魔法 息づく島々~東南アジア ウォーレスシア~』」を見た。人間と共生するコモドドラゴンや表情を使い分けるとのできるサルなど、今まで見たことのないような珍しい動物たちが紹介され、映像も大変きれいで引き込まれた。人類による自然破壊を免れたために、特殊な自然環境が守られさまざまな生き物が生き延び続けられたことも分かった。プレゼンターの福山雅治さんによる案内もすばらしかった。新型コロナウイルスに関する報道で気持ちが暗くなる日が多いが、この番組は家族でも楽しめる内容だった。人類と自然の関係について、さまざまなことを考えさせられた。

(NHK側)

ウォーレスシア諸島は、地形的に大陸とつながったことがなく、生物が独自の進化をしてきたという経緯を描いた。今回は、NHKと海外のプロダクションが共同で、これまで培ってきた自然撮影のノウハウを生かしながら制作した。

- 4月5日(日)と12日(日)の「どーも、NHK」を見た。視聴者とNHKをつなぐ広報番組として、日曜日のお昼前という視聴しやすい時間帯に編成されていてよい。この番組はアナウンサーだけでなく、タレントも出演するなど、おもしろく構成されており、日曜日1回だけの放送ではもったいないように感じる。NHKで働く人の顔が見えることで、視聴者が親近感を持つきっかけになると思う。番組制作の裏側が見られるのもよい。今後も続けてほしい。

(NHK側)

「どーも、NHK」はNHKの番組制作の舞台裏などを知っていただくために、さまざまな職種の職員が出演して伝えている。この番組を通して、視聴者にNHKのことをより深く理解していただきたいと考えている。

- 4月5日(日)のNHKスペシャル デジタルVSリアル (1)「フェイクに奪われる“私”」を見た。フェイクニュースによって引き起こされた事件が紹介されていたが、現実的な問題であり恐怖を覚えた。4月6日(月)の鶴瓶の家族に乾杯「～志村けんさんありがとう～2010年 福島県小野町の旅」を見た。番組は志村さんが亡くなったという悲しみを伝えるだけではなく、日本を代表するコメディアンを追悼するにふさわしい内容だった。4月8日(水)の歴史秘話ヒストリア「激闘! 中国革命に賭けた日本人 孫文と梅屋庄吉」を見た。孫文の中国革命を助けた梅屋庄吉という日本人の存在がしっかりと描かれており、すばらしかった。

- Eテレの「おかあさんといっしょ」など子ども番組を見ている。新型コロナウイルスの影響で学校が休校になり、どう過ごせばよいのかと戸惑いを感じている人たちがいるなかで、NHKには自宅での過ごし方や学校の先生からのメッセージなど子ども向けのコンテンツを集めたウェブサイトがあり、評価したい。今回の迅速な対応は非常によかった。子どもたちが出演していない「おかあさんといっしょ」を初めて見た時は衝撃を受けたが、新型コロナウイルスの感染拡大に気をつけなければいけないということを、番組を見た子どもも多少なりとも感じ取ることができるのではないかと。テレビの影響は大きいので、子どもたちに向けて手洗いやうがいを推奨する歌なども制作してほしい。

- 4月4日(土)のE TV特集「緊急対談 パンデミックが変える世界～歴史から何を学ぶか～」を見た。歴史学者の磯田道史さんと感染症の専門家で長崎大学の山本太郎教授、世界史に詳しい漫画家のヤマザキマリさんの3人がすばらしい対談を行っていた。歴史から学ぶという視座がとても新鮮で、イタリア在住のヤマザキさんの話も実感を伴って聞くことができた。番組後半の東京大学の河岡義裕教授のコメントも大変興味深かった。現代では実際にウイルスを人工的に製造することも可能だと分かり、恐ろしくもなったが、視野が広がった。ヤマザキさんの「生きていく上で必要最低限のことだけを意識していくような風潮が芽生える」という言葉も印象的だった。番組では、アニメーションを使いながらウイルスについて分かりやすく説明したり、複数の出演者をテレビ会議風に画面を分割して見せるなど工夫の凝らされた演出もユニークでよかった。

○ 4月11日(土)の100分de名著 カミュ“ペスト”「第1回～第4回」を見た。まん延している新型コロナウイルスのことを考えさせられる内容だった。1匹のネズミの死からペストがまん延し、市民が自由を奪われ、極限状態に陥るという様子はまさに現状と重なり、歴史に学ぶことの重要性を痛感した。自分たちの日常には問題はないのだと過小評価し、慣れてしまうことの恐ろしさに警鐘を鳴らしており、随所に教訓が散りばめられており、現代人への戒めのように感じた。自分ができることを実践するという当たり前の行動の必要性を改めて知らしめる番組だった。

○ 4月11日(土)の100分de名著 カミュ“ペスト”「第1回～第4回」を見た。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で話題になっているという話を聞き、この番組を見ようと思った。番組を見ながら、現在の世界とあまりにもリンクするところが多く恐ろしくなった。自分の中にある悪を自覚し、弱者の立場に立つとはどういうことなのかを考えさせられた。また、この感染症を乗り越えた時にどのような形で私たちの記憶に残るのか、文学作品を通じて自分たちの行動や考え方を見直すことができた。再放送も含めて、NHKの各番組で感染症に関する内容を取り上げているのはよい取り組みだ。

(NHK側)

100分de名著 カミュ“ペスト”「第1回～第4回」は、2018年に放送した番組だ。NHKでは新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、それぞれの番組で多角的に感染症について伝えている。

○ 4月10日(金)のららら♪クラシック「古関裕而の世界～日本人にエールを！～」を見た。古関裕而さんは、日本人ならば誰もが聞いたことのある曲を数多く作曲している。ご本人の映像も交えながら、さまざまなエピソードを紹介してくれた非常によい番組だった。

○ BS1の「ワールドニュース」をよく見ている。民放も含めて、新型コロナウイルスに関する報道は、情報が偏っていると感じている。もう少し客観的な報道があってもよいのではないか。「ワールドニュース」は世界各国のさまざまなニュースを伝えており、新型コロナウイルス感染症の影響が収まりつつある国と比較すると、今後日本において、どのような状況になっていくのか予測するための参考になる。ニュースは日本や世界で起きていることを冷静に報道することが重要で、必ずしも

コメンテーターに意見を聞く必要はないのではないか。彼らの発言に誘導されてしまっている面もあるのではないか。事実を正確に伝えることが今の状況では重要だと思う。

(NHK側)

新型コロナウイルスについては、日本国内の状況だけでなく、世界の情勢を伝えることも重要だと考えている。BS1では、平日夜10時から「国際報道2020」という番組も放送しているが、今後もさまざまな番組で多角的に伝えていきたい。

- 多くの番組で、新型コロナウイルスについて伝えられている。4月7日(火)の緊急事態宣言以降、NHKでも外出自粛の必要性が訴えられている。そうした中、4月9日(木)のくらし☆解説「緊急事態宣言 経済対策 生活への支援は？」を見た。岩渕梢キャスターと今井純子解説委員が質疑応答の形で給付金のことを伝えており、分かりやすかった。
- 4月11日(土)のNHKスペシャル「新型コロナウイルス瀬戸際の攻防～感染拡大阻止最前線からの報告～」を見た。厚生労働省のクラスター対策班の苦悩が描かれており、有意義な内容だった。大きなテーマを真正面から扱った番組に感服した。
- 4月14日(火)のクローズアップ現代+「医療崩壊防げ！ 悲鳴 患者たらい回し？ 救急現場から痛切訴え」を見た。新型コロナウイルスに関しては、情報が多すぎて、結局何をすればよいのか分からなくなっている人も多いのではないか。この番組は感染拡大に伴って時々刻々と変化する医療現場の状況を分かりやすく整理して伝えていた。医療現場には、新型コロナウイルスの感染者だけでなく、一般の患者もいるが、どのように対応を両立していくべきなのか、しっかりと問題提起がされていた。医療崩壊を起こさないために、一人一人が感染予防に努めなければいけないという注意喚起にもなっていた。番組を通して課題が整理されており、内容も充実していた。集中治療室で懸命な治療を受けたとしても、最後は患者自身の免疫でウイルスが消えるのを待つしかないと伝えていたことが印象的だった。

(NHK側)

4月の「クローズアップ現代+」はすべて新型コロナウイルスに関連した内容としているが、多岐にわたるテーマを扱うことで、ニュースを一步深めた内容にしたいと考えている。

ひっ迫する医療現場の現状については、今後も取材を続けていきたい。

- 4月16日(木)の「NHKニュース おはよう日本」ではひっ迫する医療現場でいわゆる「無給医」が新型コロナウイルスの診察に派遣されつつあるという現状が伝えられており、社会性のある問題提起だった。一連の新型コロナウイルスの報道については、早い段階から分かりやすい情報提供をしており、公共放送としての使命を果たしているのではないかと感じる。リスク管理を徹底しながら、今後もしっかりと取材してほしい。
- 4月16日(木)と23日(金)の「ごごナマ」の「おうちでミュージアム」というコーナーを見た。4月16日(木)は国立科学博物館で、4月23日(金)は渋谷区立松濤美術館が紹介されていた。新型コロナウイルスの影響で、博物館や美術館に見に行くことができない状況が続いているが、今回のように番組で展示の一部を紹介する取り組みはよいと思う。
- NHKプラスとNHKオンデマンドの特徴を明確にし、相互に関連性を高めてほしい。どちらのサイトで番組名を検索しても、配信が行われていればそれぞれのサイトに誘導できるとよいのではないかと感じる。新型コロナウイルスの関連番組を見逃してしまい、困っている人もいるだろう。もっと多くの人にNHKプラスを利用してもらえるよう広報してほしい。

(NHK側)

NHKプラスとNHKオンデマンドというサービスをどのように運用していくべきかについて検討を重ねているところだ。NHKプラスは始まったばかりのサービスなので、より多くの人々に利用していただけるようさらなるサービスの充実をはかっていきたい。

(NHK側)

視聴者からもNHKプラスの利用の手続きが分かりにくいという意見を頂いている。番組検索の方法などについては、視聴者の目線に立ちながら引き続きサービスの利便性の向上を図っていきたい。

- NHKプラスは放送された番組を見られるので重宝しているが、4月11日(土)

のSWITCHインタビュー 達人達（たち）「村木厚子×今野敏」は見ることができなかった。権利確保ができなかった番組なのか。

（NHK側）

権利上の都合で同時配信と見逃し配信を行えない番組もある。

- 連続テレビ小説「エール」を見た。こんな状況だからこそ、朝から応援してもらっているような明るい雰囲気番組に癒やされている。主題歌であるGREENの「星影のエール」は、多くの人たちにエールを送りたいという番組のテーマとも合っている。音楽に関係のあるドラマなので、オープニングの映像に歌詞を入れてはどうか。過去の連続テレビ小説を見ると、歌詞の入る番組と入らない番組があり、基準はあるのだろうかと思なった。

（NHK側）

「連続テレビ小説」のオープニングに歌詞を入れるかについての基準は特にないが、指摘は今後の番組制作に生かしていきたい。

- 「あさイチ」で出演者の博多華丸・大吉さんがリモート出演している。最初は慣れない様子だったが、徐々に表情も明るくなり楽しく見ている。ふだんとは異なる演出については苦勞も多いと思うが、引き続き感染防止のために工夫して制作してほしい。

NHK編成局
番組審議会事務局